司会者のまとめ（基礎研究２）

国立がんセンター東病院麻酔科

西野　卓

「基礎研究２」のセションでは４題の発表がなされた。Ⅱ-B-２８「肺炎、ＡＲＤＳの発症因子としての気道熱傷について」の発表では気道熱傷と肺炎およびＡＲＤＳ発症の関与について５２例の熱傷患者での検討結果が示された。受傷１週以内の急性期に肺炎あるいはＡＲＤＳを発症した例は極めて希で気道熱傷との直接の因果関係は認められなかった。気道熱傷の診断に関して気管支ファイバースコープの所見を中心に討論が行われた。Ⅱ-B-２９の「喫煙が咳反射及び呼吸機能に及ぼす影響」は咳反射をクエン酸吸入によって誘発し、その閾値が喫煙者と非喫煙者で異なるかどうかを検討したものである。結論としてはクエン酸誘発閾値は喫煙者で高く、咳反射が減弱しているとの示唆がなされた。討論では喫煙者の方が咳をしやすいのに何故咳反射が低下するのか、クエン酸が気道のどの部位を刺激しているのかなどの問題が中心であった。

Ⅱ-B-３０の「METHYLEN BLUEが敗血症ショックの呼吸機能に及ぼす影響」では敗血症患者へのmethylen blue投与が呼吸機能の改善に役立つかどうかを検討した。結果は2mg/kgのmethylen blue投与では循環系に僅かな変動はみられたもののシャント率を含む呼吸機能は影響されなかった。討論では投与量の妥当性および投与による副作用の問題などがなされた。

Ⅱ-B-３１「食道亜全摘・再建術周術期の肺胞洗浄液好中球エラスターゼの左右較差の変動」では右開胸食道手術患者の肺胞洗浄液中の好中球エラスターゼ変動を麻酔導入直後より術後５日目までを経時的に測定した。その結果、好中球エラスターゼは両肺で術中より増加するが、特に開胸側で著しく、術後の呼吸器合併症に好中球エラスターゼが関与する可能性が示唆された。討論では好中球エラスターゼの測定法、術後のエラスターゼ変動の意義などのついてがなされた。いずれの研究も臨床に直結した問題を取り扱っており、今後の研究の進展に期待したい。